

## ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤

劇薬・処方箋医薬品

**ミルタザピン錠 15mg「サワイ」**  
**ミルタザピン錠 30mg「サワイ」**  
**ミルタザピンOD錠 15mg「サワイ」**  
**ミルタザピンOD錠 30mg「サワイ」**

(ミルタザピン製剤)

[薬価基準未収載]

**沢井製薬株式会社**

大阪市淀川区宮原 5 丁目 2-30  
TEL: 0120(381)999

### 使用上の注意改訂のお知らせ

この度、下記のとおり使用上の注意を自主改訂致しますので、お知らせ申し上げます。  
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

#### ・改訂内容 (下線部改訂又は追加箇所)

改訂後	改訂前												
<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b></p> <p>2) MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩)を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者(「相互作用」の項参照)</p>	<p><b>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</b></p> <p>2) MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者(「相互作用」の項参照)</p>												
<p><b>【使用上の注意】</b></p> <p><b>3. 相互作用</b></p> <p>本剤は主として肝代謝酵素CYP1A2、CYP2D6及びCYP3A4により代謝される。</p> <p>1) 併用禁忌(併用しないこと)</p>	<p><b>【使用上の注意】</b></p> <p><b>3. 相互作用</b></p> <p>本剤は主として肝代謝酵素CYP1A2、CYP2D6及びCYP3A4により代謝される。</p> <p>1) 併用禁忌(併用しないこと)</p>												
<table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト)</td><td>セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。</td><td>脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト)	セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。	脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。	<table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー)</td><td>セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。</td><td>脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー)	セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。	脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー) ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト)	セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。	脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩 (エフピー)	セロトニン症候群があらわれることがある。MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者に投与しないこと。また、本剤投与後MAO阻害剤に切り替える場合は、2週間以上の間隔をあけること。	脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられる。											

☆ 改訂後の添付文書につきましては、医薬品医療機器総合機構ホームページ(<http://www.pmda.go.jp>)および弊社の医療関係者向け情報サイト(<http://med.sawai.co.jp>)に掲載致しますので、併せてご参照下さい。